

推薦する取り組み	園館名
オッターサンクチュアリ コツメカワウソ生態園	神戸どうぶつ王国

推薦理由

東南アジアの湿地帯をイメージした施設は動物たちの生息地にできるだけ近い環境になっており、国内最大の面積にはたくさんの木々(40種およそ200本)に、広い池や滝があり、そこには泳いだり駆けまわるコツメカワウソの群れが暮らします。室内につながる寝室は寒さ対策になっているそうです。これらの野生に近い環境で飼育するという動物福祉で繁殖にも成功しました。動物のために熱帯雨林を再現することはとても大切で、その生き生きした姿を来園者に見せることで実際の東南アジアの生息地の現状も伝えています。最近では絶滅危惧種のマレーバクも公開されたコツメカワウソ生態園を推薦します。





推薦する取り組み

園館名

オッターサンクチュアリ

神戸どうぶつ王国

推薦理由

こんなに広い場所でのコツメカワウソの展示は見たことがありません。東南アジアの熱帯の水辺で、大きな家族で暮らすカワウソのようすが再現されています。この展示を監修した佐藤哲也園長がおっしゃるには、野生のカワウソが暮らすシンガポールのガーデンズバイザベイという植物園の中にある湿地帯の環境を参考にしたそうです。日本の動物園・水族館では、コツメカワウソは「可愛い」側面だけを取り上げてペットのような感覚で紹介することも多いですが、ここではそういった演出は一切なく、野生動物としてのカワウソの面白さや迫力を感じることができます。屋内の狭い水槽で飼われたり、リードを付けて“お散歩”するような飼い方をされるカワウソにはない自由があるように思います。生活環境を複雑にすることで、選択肢が多く、行動の多様化を引き出す「環境エンリッチメント」の考え方をとてもよく実現できている施設だと感じました。



施設全景

